

与那国町祖納「嶋仲自治区」

集落
部門

伝説の女傑、サンアイ・イソバと生きるふるさとづくり (平成22年度認定)



与那国町は、沖縄本島から西南西へ520km、石垣島から127kmに位置し、隣国台湾までは111kmの国境の島で、嶋仲地区は与那国島の北側に位置する。明治時代までは、ティンダ・ハナタの高台に集落があったが、飲水を求めて現在の地区に移住した。集落跡には、15世紀末与那国島を統治していた女傑「サンアイ・イソバ」の居住跡と言われる場所も存在する。

嶋仲自治公民館は、伝統文化「与那国のマチリ」の一連のマチリのうち、ンマナガマチリを毎年壬午(旧暦みずのえ・うま)の日に行い、この期間をカンヌティ(神の月)と呼び祈願に参加する人たちは一切獣肉を摂らない。また、一般住民でも、四つ足(牛、馬、豚、山羊)の屠殺を厳禁され、このような伝統が現在も受け継がれている。

またこのほかにも、集落内の清掃活動や地域交流会も活発で、【伝説の女傑、サンアイ・イソバと生きるふるさとづくり】に取り組んでいる。

